

広島大学・神戸大学附属図書館訪問調査報告

小 島 浩 子（信州大学附属図書館中央図書館）

福 澤 しのぶ（信州大学附属図書館繊維学部図書館）

1. はじめに

平成 28 年 9 月に、図書館における学部学生への学習支援に関する調査のため、国内 2 大学を訪問調査する機会を得た。本稿では、この訪問調査により得た内容について報告を行う。なお、今回の訪問調査は、科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究課題「初年次セミナー受講生の『ふりかえり』を基盤とした学習支援のあり方に関する研究」（研究課題／領域番号：16K04463 研究代表者：加藤善子）の学習支援プログラムを擁する国内大学の訪問調査として実施したものである。

2. 信州大学における初年次学生への学習支援の状況

訪問調査報告に先立ち、信州大学附属図書館中央図書館（以下、当館という）における、現在の学習支援状況について簡単に述べる。当館では、現在学生に対して 2 種類の学習支援を実施している。1 つは、全ての図書館利用者を対象とした学習支援で、大学院生のラーニングアドバイザーが図書館内における学習サポートを行っているものである（村田, 2017）。もう 1 つは、特定の初年次セミナーを受講している学生を対象としたレポート作成支援で、学部学生が指導員として支援に当たっているものである（加藤, 2013; 小島, 2014）。

3. 訪問調査①広島大学

3. 1 調査の概要

平成 28 年 9 月 26 日（月）に、広島大学図書館中央図書館を訪問し、調査および施設見学を行った。訪問先として選んだ主な理由は、図書館内にライティングセンターがあり大学院生が支援を行っていること、事前調査において組織的にきちんと機能しているという印象を受けたこと、スカイプによる遠隔地支援を実施していることなどである。調査時には広島大学社会産学連携室ライティングセンター副センター長である河本健特任教授、および広島大学図書館部図書学術情

報企画グループ主査上田大輔氏にご対応いただいた。主な調査項目とその回答は次のとおりである。

3. 2 広島大学におけるライティングセンター設置の経緯と組織について

広島大学では、教員から学長に対してライティングセンター設置について要請があり、検討WGが作成された。当WGの主査が図書館長であり、検討WGの答申の中でライティングセンターを図書館に設置すると明記されたことが、平成25年度に図書館内にライティングセンターが設置された直接の経緯である。現在ライティングセンターは、センター長（図書館長が兼務）、副センター長である専任教員1名と、実務担当職員数名、そして15名の大学院生のライティングチューターから成り立っている。

専任教員は社会産学連携室（ライティングセンターの上位組織）所属の特任教授で、専門分野は分子生物学である。教員の担当業務は、ライティングセンターの統括、セミナーの開催、英語ライティング個別相談、ライティング関連授業の担当等である。ライティングセンターの事務的業務は、図書館職員2名が図書館業務との兼務で担当しているほか、研究企画室の職員も実務に加わっている。ライティングセンター運営会議において予算配分、業務予定・報告等運営の大枠が協議される。このほかに、実務中心メンバー（特任教員1名、図書館担当職員3名、研究企画室職員3名の計7名）による月1回の定例ミーティングを実施し、細かな実務に関してはここで検討している。広島大学の高等教育研究センターとは特に連携していないが、教養教育本部とは連携しながら業務を行っているほか、今後教員のアドバイザーを増やす計画もあるとのことだった。

3. 3 ライティングチューターの学生の専攻と研修体制について

ライティングチューター（以下、チューターという）の学生は、平成28年度は博士課程大学院生10名と修士課程の大学院生5名の合計15名である。チューターの専門分野は教育学分野が最多だが、社会科学系の研究科等に所属している者もいる。理系の学生はほとんどいない。雇用上の身分はTAである。チューターの募集にあたっては、履歴書+レポートのほかに、大学院授業の「学術文書の書き方とその指導法」を履修していることを要件とし、採用の際にはこの授業の成績も考慮している。そのほか英文ライティング相談の担当も希望する場合は、英文Paperとアカデミックライティングの大学院授業の履修を要件としている。募集は、公募や掲示、Webサイト等でも行っているが、応募条件となる授業で履修学生に案内するのが一番効率的である。

研修は、ほぼ現役チューターが担当している。事前研修としては、講義3~4コマ程度と模擬セッションを行ったのちに、先輩チューターの相談対応の見学3回を義務付けている。その後、相談対応の最初3回目までは先輩チューターがサポートにつく。

支援期間中には1時間のチューターミーティングを週に1回実施しており、そのうち30分は振り返りや打合せ、残り30分はテーマを決めて研修を行っている。この研修は、チューターが1人ずつ交代で講師を担当している。

3.4 利用対象者と効果測定について

広島大学の構成員であれば誰でも相談が可能である。教職員からの相談もまれにあるが、全体としてみると留学生の利用比率が非常に高い。特に修士課程の留学生の利用率が高く、修士論文等を何度も何度もライティングセンターに持ち込み、チェックしてもらっているようだ。日本人学生はやはり学部1年生が比較的多いが、卒業論文等で相談に来るケースもある。周知方法としては、図書館のガイダンス、図書館内のポスター掲示等のほか、チューターによるFacebookでの広報や、先生方への授業での紹介の依頼などもしている。

平成28年度は、日本語ライティング相談を平日10:30~18:00の時間2名体制で、英文ライティング相談を平日14:35~18:00の時間1名体制で実施しているが、28年度前期の稼働率は60%~70%程度で非常に高い。28年度の相談件数は前年度比約150%となっており、件数は年を追うごとに増加している。また、利用終了時に満足度調査的な内容の簡単なアンケートを実施しているが、満足度は高い。相談件数の推移とアンケートの結果からライティングセンターの効果測定を行っている。

3.5 スカイプによる遠隔支援について

スカイプによる遠隔支援は、現在試行で実施している。事前にWeb申込してきた利用者にはスカイプIDをメールで連絡し、当日は時間になったらそのIDにつないでもらう。作成したレポートがある場合は事前にメールで送付しておいてもらうようにしている。

チューター側はライティングセンターで相談対応しているが、相談者はPCをネットワークに接続可能な環境であればどこからでも利用できる。遠隔地側の図書館でノートPCとヘッドセットの貸出体制を準備しているが、ほとんどの場合自分のPCを使っているようだ。

これまでは試行実施で対象者が限られていたので、月に1回利用があるかないか程度だったが、平成28年の秋から対象者を広げる予定でいる。課題としてはシステムトラブルへの対応や、相談者のPCスキルによってできる対応が限られる点等である。

3.6 施設見学について

ライティングセンターは、中央図書館の入り口から非常に分かりやすい位置にあり、入りやすさ・周囲への話し声や視線への配慮などに工夫されたスペースを確保されている。センター内には過去の相談内容が記録されたカルテのようなファイルが多数保管されていて、それを保管しているキャビネットが、相談ブースとバックヤードを仕切るように上手く配置されていた。専任教

員が在籍し学生の学習と教員の研究双方の支援を実施している点も印象に残った。また、中央図書館内の総合案内にはメディアセンター職員が常駐し、レファレンスだけでなく PC サポートについても利用者の問い合わせに対応している点(写真1)や、自動化書庫が導入されており、資料の集中管理がなされている点についても印象的であった。



写真1 広島大学総合案内

4. 訪問調査②神戸大学

4.1 調査の概要

平成28年9月27日(火)に、神戸大学附属図書館社会科学系図書館および人文科学図書館を訪問し、調査および施設見学を行った。訪問先として選んだ主な理由は、当館と同様に学内に複数の図書館を有する同大学にて学習支援を含めた利用者サービスをどのように実施しているかを知りたかったこと、および、同大学人文科学図書館内で実施されている教員によるオフィスアワーの取り組みに興味をもったためである。社会科学系図書館では、神戸大学附属図書館情報管理課課長補佐 菊池一長氏および、神戸大学附属図書館情報管理課企画係長兵頭尚恵氏の両氏にご対応いただき、人文科学系図書館では、神戸大学附属図書館情報サービス課人文科学情報サービス係長多田真紀子氏にご対応いただいた。主な調査項目とその回答は次のとおりである。

4.2 全学における学習支援および利用者サービスについて

ピアサポーターによる学習支援等は実施していないが、職員によるレポート講座開催等の取り組みを実施している。レポート講座については、実施場所を社会科学系図書館から国際文化学図書館に変えてみたら参加者が大幅に増えたので、場所や利用者のニーズ把握は大切だと感じた。学習支援については、全館WGにて検討を行っている。いずれも学部が付随する図書館なので全館で何かをやることや個別に行ってきたサービスを一律にすることはなかなか難しいが、職員は全館のWGを幾つも作って、新しく始めるサービスなど全館統一できることは一緒にやるようにしている。後述する立地条件を鑑み、同じキャンパス内でのやりとりであっても利用者が希望する図書館へ取り寄せし貸出できるようにしている。このサービスについては利用者のニーズが高いようで、毎日の物量は非常に多くなっている。

4.3 アンケート調査について

神戸大学では、平成27年1~2月に全学アンケートを実施していることから、アンケートの実施方法、その広報手段等について話を聞いた。アンケートは図書館Webサイトからリンクし

た回答フォームによる Web アンケートと、9 館での冊子配布・回収の 2 種類の方法で実施した。Web アンケートは、ツール「REAS」(放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター提供)を使用し、回答へのインセンティブとして、回答した学生(希望者)から抽選で iPad mini2 や Quo カード等の景品を提供した。

アンケートの総回答数は 2,294 件で、うち 90.7%が Web 回答、残りが紙による回答だった。利用者区分としては、学部学生が約 80%、大学院生が約 17%、残りは教職員等で、学部学生の在籍者数に対する回答率は約 15.3%だった(参考:当館実施の平成 27 年度利用者アンケートの回答数は、461 件、在籍者数に対する回答率 4.3%)。それまで同様の方法で利用者アンケートを実施していないので比較ができないが、工学部の学生の回答率が他と比較して高いことから、景品のインセンティブ効果は大きいのではないかと考えている。アンケートの手法や質問内容等については、全館から 1~2 名ずつメンバーを出し WG で検討した。

4. 4 人文科学図書館でのオフィスアワーについて

平成 25 年に人文科学図書館にラーニングコモンズが設置されたタイミングで教員より提案があり、人文学研究科のグローバル人材育成事業の一環として、図書館内でのオフィスアワーが始まった。ラーニングコモンズの設置自体についても教員からの要望によるもので、どういう形にするかを教員と検討しながら設置した。現在は、火曜・木曜・金曜の週 3 回外国語系の教員がオフィスアワーを行い、語学や留学に関する相談に乗っている。

そのほか、図書館資料を使った演習形式の授業やイベントなど、教員からの提案が数多くあり、教員と密に連携をとりながら支援を行っている。

4. 5 施設見学について

特徴的なコレクションとして「震災文庫」があり、平成 7 年の阪神・淡路大震災の被害・救援・復興などに関する様々な資料・文献等を集め、デジタルアーカイブとして公開している。今回は、六甲台キャンパスの社会科学系図書館と人文科学図書館の 2 館を訪問した。なお、社会科学系図書館本館および書庫の一部は国の登録有形文化財に登録されている。

六甲台キャンパスには 6 館の図書館があるが、六甲山の斜面に大学があるため行き来がしづらい立地条件となっている。そのため図書館間の配送便を運用することで利用者の利便性を図っている。また、ラーニングコモンズについては、全学共通の表示・Web サイトを使用しており、利用者に分かりやすいものとなっている(写真 2)。特に、人文科学図書館では、教員との密接な関わりによって活発な利用がされていると感じた。

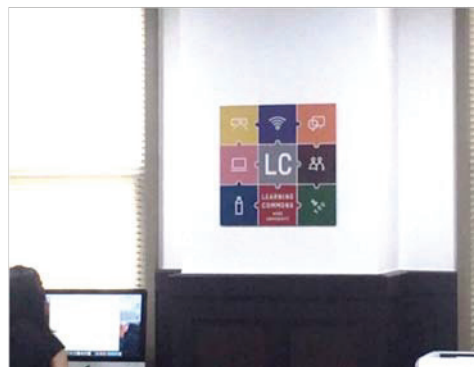


写真 2

謝辞

今回の訪問調査に際し、広島大学・神戸大学のご担当者には、資料準備およびご説明・ご案内等多大なご協力をいただきました。お忙しい中、快くご対応いただきましたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。

参考文献

村田輝「信州大学附属図書館におけるアクティブ・ラーニング支援—『主体的な学び』を支える人的支援に向けて—」信州大学附属図書館研究. 6 (2017)

加藤善子、小島浩子「信州大学におけるレポート作成支援：図書館と授業との連携の試み」信州大学附属図書館研究. 2: 125-133 (2013)

小島浩子、山口美咲「2013 年度レポート作成支援の状況について【報告】」信州大学附属図書館研究. 3: 99-103 (2014)